

伊豆の国市長

望月良和



明けましておめでとうございます。

市民の皆さま方には、ご家族様おそろいにて輝かしい新春をお迎えのことと拝察し、心からお喜びを申し上げます。

我が伊豆の国市も誕生以来三年目の春を迎えますが、これまで各種のイベントや事業を通じて参加された市民の皆さまから、市の一体感が強まったようすがうかがえ、感謝しております。

今年の干支は、「亥」です。「猪突猛進」の言葉が示すように、

まっすぐに突進するイメージが強いのですが、実はイノシシは二メートルの柵を飛び越えたり、急旋回もできるなど機敏な動きもみせます。また泳ぎが得意な上に、嗅覚は特に

優れていると言われています。大きな変革の波が予想される亥年には、イノシシのごとく嗅覚を際立たせ変化の状況を敏感に受け止め、機敏な動きで業績を飛躍させて幸せを呼び込みたいものです。

さて、昨年の十二月定例議会において、本市の総合計画基本構想を定めました。将来像は、自然を守り、文化を育む、魅力ある温泉健康都市です。本市が伊豆半島におけるさまざまな交流の要衝の地に位置することから、伊豆半島の中心的な役割を担えるものとして、次の三つの戦略を展開しその実現を図っていきます。

その戦略の一つは、伊豆半島の中心をキーワードに展開する『伊豆半島交流軸の構築』です。市内には伊豆箱根鉄道が走り、

半島の動脈である国道一三六号やそのバイパス、あるいは国道四一四号が交差するとともに、東駿河湾環状道路や天城北道路の開通も間近となったことから、本市を人・物・情報の交流の要衝地としてその機能の充実を図り、広域的役割を担うまちづくりを進めます。

戦略の二つ目は、狩野川をキーワードに展開する『狩野川流域生活圏の一体化』です。狩野川中流域を中心に自然や歴史、文化に根ざした魅力あるまちづくりを進めます。

戦略の三つ目は、食と農をキーワードに展開する『安全、安心、健康のまちづくり』です。市内の食品残渣を使った有機肥料による農作物を栽培し、安全な食材による地産地消を進め、市民はもとより観光客にも健康な

食を提供します。そして、経済循環による農業振興と観光振興、さらに資源循環による環境対策も同時に進めます。国と地方自治体は、三位一体の大改革の時代を迎えております。本市におきましても、市民の皆さまとともに心を一つにして着実な前進を図っていく所存でありますので、よろしくお願いたします。

今年亥年

今年の干支は亥(猪)です。猪と人との関わりは、はるか縄文時代に遡ります。当時の遺跡から埋葬された猪の骨が出てきたり、牙で作った飾りなども発見されています。縄文時代から家畜化された猪は改良されて豚になりました。

市内でも、この関わりを示す遺跡を見ることが出来ます。それは

長者ヶ原の北側尾根に長く連なる「猪土手」(写真)と呼ばれるものです。



この土手は高さ約一メートル、幅約一・五メートルで、外側写真では道路の所に堀を作っています。土手の上には木の柵が作られています。この堀と土手で猪に作物を荒されるのを防いでいたものです。

長者ヶ原の開墾が始まったのは、明治二十年代です。明治三十年ごろには作られていたと考えられます。もともと猪の棲家だった場所を開墾して猪と戦わなければならなかった入植当時の苦勞が偲ばれますね。

新年のごあいさつ 伊豆の国市のさらなる発展

市民の皆さま、明けましておめでとうございます。

平成十九年の新春を迎えるにあたり、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は、伊豆の国市はもとより、全国的にも自然災害の少ない一年だったと思います。

十一月に異常気象の一つでしょうか、今までの日本にはあまり無かった竜巻の被害が注目を集めたくらいで済みました。本年も是非無災害であって欲しいと願っています。

伊豆の国市もいよいよ合併三年目に入りますが、現在の景気の動向はどうでしょうか。国においては、景気拡大連続五十九カ月である『いざなぎ景気』を超える新記録だそうです。私たちが個人的にはまったくその実感はなく、地方の景気回復はまだ

まだと感じているところですが、そんな中、平成十九年度予算の編成が始まっていますが、限られた財源の中で予算を組み、自然を守り、文化を育む、魅力ある温泉健康都市の実現を目指し、行政と議会は力を合わせていかなければなりません。

十二月議会において、伊豆の国市総合計画の基本構想が議決されました。その中で構想実現のためには、

- (1) 成果の見える行政運営
- (2) 市民に開かれた行政運営
- (3) 自主・自立の行政運営

の三つが掲げられております。この三点はまさに我々議会にもそのままあてはまります。行政と協力できる点は大いに協力し、しかしそのチェック機能は充分発揮しなければいけません。

昨年北海道の夕張市が財政破綻し、その再建策の厳しさが話

題になりました。市民税などは大幅増税、使用料や保育料は大幅アップ。一方、七校ある小学校や四校ある中学校を各一校に、養護老人ホームや体育館、図書館などが軒並み廃止されます。まさに夕張市民にとっては塗炭の苦しみが続いています。なぜこんな事になってしまったのでしょうか。過去の行政の責任はもちろんです。議会の責任も大きいと思います。議会のチェック機能が働かなかつたのでしょうか？ 私たち伊豆の国市議会も他山の石とすべきと考えます。

結びとなりますが、本年が市民の皆さまにとって素晴らしい年になりますよう祈念し、新年のあいさつといたします。

伊豆の国市議会議長

永口哲雄

